

# 平成30年度病害虫発生予報第3号

平成30年 6月 1日  
愛 知 県

## 普通作物

### ・予報内容

作物名	病害虫名	発生量 (発生時期)	主な 発生地域	予報の根拠	予報への影響
イネ	いもち病 (葉いもち)	平年並	県全域	5月下旬現在、発生を認めていない(平年並) 6月の降水量は平年並が多い	± ±～+
	紋枯病	平年並	県全域	前年の発生量は平年並 6月の降水量は平年並が多い	± ±～+
	縞葉枯病	平年並	県全域	前年の発生量はやや多い 3月のヒメトビウンカのイネ縞葉枯ウイルス保毒虫率は低い 5月下旬のヒメトビウンカの発生量は平年並	+ - ±
	ニカメイガ	平年並	県全域	予察灯及びフェロモントラップにおける誘殺数は平年並	±
	ヒメトビウンカ	平年並	県全域	5月下旬の発生量は平年並 予察灯における誘殺数は平年並	± ±
	ツマグロヨコバイ	やや多い	県全域	5月下旬の発生量はやや多い 予察灯における誘殺数は平年並	+ ±

### ・防除対策

#### [イネ・ツマグロヨコバイ]

育苗の段階で、箱施薬剤に本種に対して効果の低い薬剤を選定した場合は、ダントツ粒剤、スタークル/アルバリン粒剤などで防除しましょう。

### ・留意事項

イネ紋枯病は、梅雨期の温度が高いと発生量が増加します。特に、梅雨初期頃に高温で推移すると、発生が早まりその後の発生量も多くなるため、前年の発生量が多かったほ場では、ほ場内での発生状況に注意しましょう。

イネいもち病は気温が20～25℃で曇雨天が続くと発生量が多くなります。発生を確認したら、速やかに防除しましょう。また、補植用苗は本田でのいもち病の伝染源になるので、補植終了後は直ちに除去しましょう。

## 果樹

### ・予報内容

作物名	病害虫名	発生量 (発生時期)	主な 発生地域	予報の根拠	予報へ の影響
ウンシュウミカン	そうか病	やや多い	県全域	5月下旬の発生量は平年並 6月の降水量は平年並が多い	± ±～+
	黒点病	やや多い	県全域	5月の枯枝の孢子形成量は平年並 6月の降水量は平年並が多い	± ±～+
	ミカンハダニ	やや多い	県全域	5月下旬の発生量はやや多い	+
	アブラムシ類	平年並	県全域	5月下旬の発生量は平年並	±
	チャノキイロ アザミウマ	多い	県全域	イヌマキにおける5月下旬の発生量は多い 粘着トラップにおける誘殺数は平年並	± ±
ナシ	黒星病	やや多い	県全域	5月下旬の発生量は平年並 5月の降水量は多かった 6月の降水量は平年並が多い	± + ±～+
	アブラムシ類	やや少ない	県全域	5月下旬の発生量はやや少ない	-
モモ	せん孔細菌病	やや多い	県全域	5月下旬の発生量は平年並 5月に風を伴う降雨があった 6月の降水量は平年並が多い	± + ±～+
	黒星病	やや多い	県全域	4月の発病枝率は平年並 6月の降水量は平年並が多い	± ±～+
	灰星病	やや多い	尾張地域	4月の発病花率は平年並 6月の降水量は平年並が多い	± ±～+
	ナシヒメシンクイ	平年並	県全域	フェロモントラップにおける誘殺数は平年並	±
	モモハモグリガ	やや少ない	県全域	5月下旬の被害葉率はやや少ない フェロモントラップにおける誘殺数は平年並	- ±
ブドウ	べと病	多い (やや早い)	県全域	5月下旬の発生量は多い 6月の降水量は平年並が多い	+ ±～+
	黒とう病	やや多い	県全域	5月下旬の発生量は平年並 6月の降水量は平年並が多い	± ±～+
	チャノキイロ アザミウマ	少ない	県全域	イヌマキにおける5月下旬の発生量は少ない 粘着トラップにおける誘殺数は平年並	- ±

作物名	病害虫名	発生量 (発生時期)	主な 発生地域	予報の根拠	予報への影響
カキ	炭疽病	やや多い	県全域	前年秋の発生量は平年並 6月の降水量は平年並が多い	± ±～+
	角斑落葉病 円星落葉病	やや多い	県全域	前年秋の発生量は平年並 6月の降水量は平年並が多い	± ±～+
	うどんこ病	平年並	県全域	5月下旬の発生量は平年並	±
果樹共通	カメムシ類	やや多い	県全域	チャバネアオカメムシの越冬成虫密度はやや多い フェロモントラップ及び予察灯における誘殺数はやや多い	+ +

### ・防除対策

#### 〔ウンシュウミカン・そうか病〕

発病した葉や果実は取り除き、園外へ持ち出して処分しましょう。ジマンダイセン／ペンコゼブ水和剤やナリアWDGなどで防除しましょう。

#### 〔ウンシュウミカン・黒点病〕

ジマンダイセン／ペンコゼブ水和剤などで防除しましょう。

#### 〔ウンシュウミカン・ミカンハダニ〕

マシン油乳剤95やトモノールSなどで防除しましょう。

#### 〔ウンシュウミカン・チャノキイロアザミウマ〕

本日発表の「平成30年度病害虫発生予察注意報第2号」を参照してください。

#### 〔ナシ・黒星病〕

発病した葉や果実は取り除き、園外に持ち出して処分しましょう。ベルコート水和剤やフルーツセイバーなどで防除しましょう。

#### 〔モモ・せん孔細菌病〕

品種によっては収穫期に入るので、収穫前日数に注意し、デランフロアブルやスターナ水和剤などで防除しましょう。

#### 〔モモ・黒星病〕

品種によっては収穫期に入るので、収穫前日数に注意し、デランフロアブルやチオノック／トレノックスフロアブルなどで防除しましょう。

#### 〔モモ・灰星病〕

開花期に花腐れがみられたほ場では、ナリアWDGやインダーフロアブルなどで防除しましょう。

#### 〔ブドウ・べと病〕

本日発表の「平成30年度病害虫発生予察注意報第3号」を参照してください。

#### 〔ブドウ・黒とう病〕

発生を確認したら、発病部位を適切に除去するとともに、ファンタジスタ顆粒水和剤やオンリーワンフロアブルなどで防除しましょう。

#### 〔カキ・炭疽病〕

ジマンダイセン／ペンコゼブ水和剤やベルコート水和剤などで防除しましょう。

#### 〔カキ・角斑落葉病、円星落葉病〕

樹勢が弱まると多発しやすいので、肥培管理に注意して樹勢の維持を図りましょう。ジマンダイセン／ペンコゼブ水和剤やベルコート水和剤などで防除しましょう。

#### 〔果樹共通・カメムシ類〕

4月3日発表の「平成30年度病害虫発生予察注意報第1号」、5月25日発表の「果樹カメムシ類情報第2号」を参照してください。

・留意事項

チャノキイロアザミウマはウンシュウミカンで多い状況なので、ブドウやカキにおいても注意が必要です。発生ピーク予測日の詳細は本日発表の「平成30年度病害虫発生予察注意報第2号」を参照してください。

野菜

・留意事項

ミナミキイロアザミウマやコナジラミ類が発生している施設野菜ほ場では、栽培終了後に施設を密閉して、ウイルスの媒介虫を死滅させましょう。

花き

・予報内容

作物名	病害虫名	発生量 (発生時期)	主な 発生地域	予報の根拠	予報への影響
キク (露地)	白さび病	やや多い	平坦部	5月下旬の発生量は平年並 6月の降水量は平年並が多い	± ±～+
		やや多い	中山間部	5月下旬の発生量は平年並 6月の降水量は平年並が多い	± ±～+

・防除対策

〔キク（露地）・白さび病〕

被害葉は伝染源となるので、できるだけ摘除しましょう。チルト乳剤25やアミスター20フロアブルなど系統の異なる農薬でローテーション防除しましょう。

・留意事項

アザミウマ類、ハダニ類などの害虫は、気温が高いと増加しやすくなるので、ほ場をよく観察して発生を確認したら早めに防除しましょう。

発生量に関する用語については、ホームページ「あいち病害虫情報」（アドレス：<http://www.pref.aichi.jp/byogaichu/yougo.html>）、予察灯、フェロモントラップなどの各種調査データは、ホームページ「あいち病害虫情報」（アドレス：<http://www.pref.aichi.jp/byogaichu/investigation.html>）を参照してください。

参考

東海地方 1か月予報（名古屋地方気象台5月31日発表）

〈特に注意を要する事項〉

期間の前半は、気温がかなり高くなる可能性があります。

〈予想される向こう1か月の天候〉

平年に比べ曇りや雨の日が多いでしょう。

向こう1か月の平均気温は、高い確率60%です。降水量は、平年並または多い確率ともに40%です。日照時間は平年並または少ない確率ともに40%です。

週別の気温は、1週目は、高い確率70%です。2週目は、高い確率50%です。3～4週目は、平年並または高い確率ともに40%です。

〈向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率〉

〔気温〕 低い：10% 平年並：30% 高い：60%  
 〔降水量〕 少ない：20% 平年並：40% 多い：40%  
 〔日照時間〕 少ない：40% 平年並：40% 多い：20%